

ケチュア語の接辞

青木 芳夫*・パロミーノ＝青木 アンヘリカ**

Los Sufijos del Idioma Quechua
Yoshio AOKI y Angélica PALOMINO DE AOKI

日本文要旨

ケチュア語は、アンデス諸国では数百万もの人々によって日常的に使用されており、言語学的には、日本語と同様に膠着語に属している。膠着語では接辞が重要な役割を演じるが、ケチュア語の辞書の場合、これまで接辞が独立して収録されることはなく、動詞ないし名詞と結合した形でしか取り上げられてこなかった。したがって本稿では、ケチュア語の接辞をアルファベット順に整理し、説明を加える。

I はじめに

ケチュア語は、南アメリカのアンデス諸国を中心に、いまでも数百万もの人々によって日常的に使用されている土着言語のひとつである。言語学的には、日本語と同様に膠着語に属し、したがって接辞が非常に重要な役割を演じている。

本稿の目的は、ケチュア語の接辞（接中辞・接尾辞）をアルファベット順に整理し、例文を付して簡潔な説明を加えることにある。これまでのケチュア語の辞書では、接辞は他の品詞と結合した形でしか収録されてこなかった¹⁾。たとえば、

riy (行く) ripuy (行ってしまふ)

したがって、本稿の試みは、それを補う意味において有意義だと考える。それと同時に、補論として、接辞の標準的な語順を図示したい。

なお、ケチュア語は「ケチュア諸語」²⁾と呼ぶほうが正確なくらいに地方差が大きい。本稿では、ペルー・クスコ地方のケチュア語を例にとりて説明を加えることにする。また、人称毎に異なる接辞が対応するようなグループ³⁾は除外する。

II 接辞一覽⁴⁾

—CHA ①縮小の接辞。名詞・代名詞・形容詞に接続し、ふつうは親愛の情を表わすが、たまに軽蔑を示すこともある。

例 Awilachayqa allinllan kashan. (私のお婆ちゃんは元気です。)

Luischaqa manan allintachu llank'an. (ルイスの奴はあまり働かない。)

- CHÁ ②予測の接辞。-pas/-pisと併用されると、その予測の根拠があまり確かでないことを表わす。
 例 *paranqachá*. ([雲が出てきたから] 雨が降るでしょう。)
paranqapaschá. ([今は晴れているが] もしかしたら、雨が降るかもしれない。)
- CHAKUY (-cha + -ku + -y)
 ①家族用語の名詞に接続して、「[自分の]……にする」という意味の動詞に変える。
 例 *churi* (息子) → *churichakuy* (息子にする、養子にする)
- CHAQ/-CHACHAQ
 ①増大の接辞。ジャガイモや石など、小さなものの中で比較的大きなものを指す場合に使用する。
 例 *hatun* (大きい) → *hatuqaq/hatuchachaqaq* (比較的大きい)
- CHAY (-cha + -y)
 ①主として特定の名詞に接続し、「作る」「変える」などの意味の動詞に変える。
 例 *wasi* (家) → *wasichay* (家を建てる)
- CHI ①普通動詞を使役動詞に転換する。
 例 *yachay* (学ぶ) → *yachachiy* (学ばせる、教える)
- CHU ①否定文・疑問詞を伴わない疑問文・否定疑問文の作成。品詞にかかわらず、否定したり疑問に思ったりする語に直接つく。
 例 *Pay mana runasimita rimanchu*. (彼はケチュア語を話さない。)
T' antata munankichu? (あなたはパンが欲しいですか?)
Manachu qheswata rimanki? (あなたはケチュア語を話さないのですか?)
 なお、疑問文において2つないしそれ以上の単語に連続してつく場合、択一疑問文であることを示す。
 例 *Chakipichu karrupichu risunchis?* (歩いて行きますでしょうか、車で行きますでしょうか?)
- KACHA
 ①動詞に接続して、反復・頻繁の意味を表わす。
 例 *puriy* (行く) → *purikachay* (行ったり来たりする。)
 ②名詞に接続し、かつ -y (-yの項、参照) が後続する場合、偽装の意味の動詞となる。
 例 *qhari* (男) → *qharikachay* (男らしく見せる。)
- KAMA ①別れの挨拶。
 例 *Huk ratukama*. (またのちほど。)
 ②時間の終点。日本語の「……まで」に相当する。また、期間(「……のあいだ」)を意味することもある。
 例 *Noqaykuqa hamuq killakama kay wasipi tiyasaqku*. (私たちは、この家に来月まで住みます。)
Luisqa kunankama pukllashan. (ルイスは、今も遊び続けている。)
Qhatu rirunaykama wawata qhawashanki! (私が市場に行っている間、赤ちゃんを見ていてください!)
- ③場所の終点(「……まで」)。
 例 *Limamanta Tumbeskama karrupi rini*. (私は、リマからトゥンベスまで

車で行きました。)

④「みんな……ばかり」。

例 Qharikaman wawaykunaqa. (私の子供は、みんな男です。)

-KAMAYOQ / -KAMAYU

①特定の名詞に接続して、役職者等を表わす名詞を作る。

例 llaqta (村) → llaqtakamayoy (村長)

punku (門) → punkukamayoy (門番)

-KAMU (-ku + -mu), -KAPU (-ku + -pu)

① -kuの項、参照。

-KU ①再帰動詞の作成。

例 Makiyta maqchhikuni sapa p'unchay. (私は、毎日手を洗います。)

Turayqa ancha allin libruta rantikun. (私の兄は、彼自身のために非常によい本を買いました。)

②縮小の接辞。挨拶の中などで、表現を和らげたり親愛・関心の念を表わす。

例 Señoracha allinllachu kakushanki? (お嬢さん、お元気ですか?)

T'antachata mikhukushani. (私は、[おいしく]パンを食べています。)

なお、-muや-puといった接辞が後にくると、-kuは-kaに音韻変化する。

例 Qosqopi p'achakunata rantikamuni. (私は、クスコで自分のために服を買いました。)

Haqay warmiqa erqechanta pusakapun. (あの女性は、自分の子供を連れて行ってしまった。)

③喜怒哀楽の形容詞・名詞が動詞化するとき、-kuを伴うことがある。

例 kusi (喜び) → kusikuy (喜ぶ)

phifa (怒っている) → phifakuy (怒る)

-KU / -KA

①縮小の接辞。洗礼名や家族用語に接続する。

例 Rosaku (ロサちゃん) Juliaka (フリアちゃん)

-KUNA ①名詞の複数形の作成。

例 Warmachakuna pukllashanku. (子供たちが遊んでいます。)

* 数詞がついている場合は、原則として -kunaをつけないが、スペイン語の影響によりつけてしまうことがある。

例 Pisqa qelqana(kuna) mesapatapi kashan. (机の上には5本の鉛筆があります。)

** 目とか足とか耳とかの場合は、-kunaをつけない。また、じゃがいもやパンのように集合名詞的に使用されるものの場合にも、-kunaはつけなくてもよい。

例 Mayupi chakiyta maqchhikamuni. (私は、川で足を洗いました。)

*** 金・銀のような金属の場合や、数えられないもの、無限にあるもの場合には、-kunaをつけない。

例 Askha qolqeta munani. (私は、たくさん金が欲しい。)

-LI / -YLI

①動詞の語幹に接続し、性格を表わす形容詞を作る。

例 manchay (恐がる) → manchali (恐がりの)

puñuy (眠る) → puñuyli (寝坊の)

- L L A ①限定の接辞。名詞にも動詞にも接続する。日本語の「……だけ」に相当する。
例 *Lukasllan paypa amigun.* (ルーカスだけが彼の友人です。)
Noqaykuqa takillayku, manan tusuykuchu. (私たちは歌うだけで、踊りません。)
- ②縮小の接辞。挨拶などの中で、表現を和らげたり親愛の念を表わしたりする。
例 *Allinllachu kashanki?* (お元気ですか?)
- ③継続・習慣の接辞。
例 *Qhalilla kusilla kashani.* (私は、あいかわらず元気で幸せにしております。)
Machupikchutaqa rillayku. (私たちは、よくマチュピチュに行きます。)
- ④ -lla + -pis/-pasで、「……だけでも」の意味になる。
例 *Mariallapas japonesta rimanan.* (マリアだけでも、日本語を話すべきだ。)
- ⑤ -lla + -puwan + -pasで、「……でさえ」の意味になる。
例 *Mariallapuwampas japonesta riman.* (マリアでさえ、日本語を話す。)
- ⑥ -pas……-lla + -taqとなると、「[そして]……もまた」という意味になる。
例 *Lukas t'antata mikhun, Mariapas mikhullantaq.* (ルーカスはパンを食べます。そしてマリアもまたパンを食べます。)

- L L A Ñ A (-lla + -na)

- ①強調の接辞。

例 *Kay orqoqa munaychallañan.* (この山は、とても美しい。)

- M A ①強調の接辞。話し手の驚き・確信を表わす。

例 *Qanma chinkanki.* (あなたこそ、こそこそ隠れている。)

- M A N ①移動の方向。日本語の「……へ」に相当する。特に動物・川・道などの場合。

例 *Lukas pas Qosqomanmi ringa.* (ルーカスも、クスコへ行くだろう。)
Pablon wakataqa mayuman qatin. (パブロは川の方へ牛を追って行った。)
Haqay ñan pas Saqsaywamanmanmi rin. (あの道もまた、サクサイワマンに通じています。)

- ②移動の目的ないし対象。あるものを取得したり、誰かを探したり、集まりに参加したり、あるいは見せ物を見に行くことまで、多様な目的を示す。

例 *T'antaman rishani.* (私は、パンを買いに[取りに]行きます。)
Warmipas qharipas misamanmi rishanku. (男も女もミサに行くところです。)

- ③特定の時間を表わす名詞に接続して、慣用句を作る。

例 *Ch'isiman wasiyta hamunki!* (今晚私の家に来てください!)
Watamanqa Japontan ripusaq. (来年には私は日本に行ってしまいます。)

- ④TUKUY動詞と併用されると、変化の結果を表わす。

例 *Allin runaman tukupun.* (彼は、善い人間になった。)

- ⑤可能法の作成。

例 *Qolqey kanman, (chayqa) allinta mikhuyman.* (私にお金があれば、[そしたら]十分食べられる。)
Qolqey kaqtinqa, allinta mihuyman. (同上)

- M A N T A

- ①場所の起点。名詞に接続する。日本語の「……から」に相当する。

例 *Wasiymanta wasiykiman hamuni.* (私は、自分の家からお宅にやってきました。)

②時間の起点(「……から」)。

例 *Paqarinmanta eskuylaman risaq.* (私は、明日から学校に行きます。)

③材料の接辞。

例 *Punchuyqa alpaka millmamanta.* (私のポンチョは、アルパカ毛製です。)

④出身の接辞。

例 *Warma-yanaykiri Punomantachu?* (で、あなたの恋人はプーノのご出身ですか?)

⑤話題の接辞。

例 *Noqamanta rimashanku.* (彼らは、私のことを話しています。)

⑥「……から」という意味(奪格)を示す接辞。

例 *Noqaqa Pedromanta pelotata mañakuni.* (私はペドロからボールを借りた。ペドロにボールを貸してもらった。)

⑦人称代名詞に接続すると、「勝手に」とか「自分で」という意味になることがある。この場合、-llaを伴うことが多い。

例 *Erqechaqa payllamanta laq' arukun.* (子供は、自分で転んだ。)

-MASI ①名詞に接続し、「仲間」の意味を加える。

例 *wasi* (家) → *wasimasi* (家族、「同居している仲間」の意味)

-MI/-N

①確信あるいは目撃の接辞。話し手は、自分の言葉が本当に確かであり、実際に見たか参加したことを示したいときに、使用する。子音で終わる単語の場合は -mi、母音で終わる場合は -nをつける。

例 *Lukasmi karrupi Limata rin.* (ルカスは、車でリマに行った。[私が証人だ。])

Miguelqa allin wiraqochan. (ミゲルは、立派な紳士だ。[と、私は確信する。])

-MIYA/-MIKU

①継続・反復の接辞。ふつう悪い意味になる。

例 *qhaway* (見る) → *qhawamiyay* (見張り続ける)

uyariy (聞く) → *uyamikuy* (盗み聞きする)

-MPU (-mu + -pu)

① -puの項、参照。

-MU ①運動を表わす動詞につく場合、その動作が話し手のいるところに向かって行なわれていることを示す。

例 *Erqechaqa usqhaytan purimushan.* (子供がこちらへ早足で歩いてきます。)

Apamuchun mikhunata. (食事を持ってくるように、とってください。)

②自然現象を表わす動詞につく場合、その現象が話し手のいるところで起こることを示す。

例 *Paramushanña.* (当地では、もう雨が降っています。)

Paqarinqa kayneqipipas ruphayamunqayá. (明日、このあたりでも、きっと晴れになるでしょう。)

③それら以外の一般動詞につく場合は、その動作が話し手のいるところから離れた場所で行なわれることを示す。なお、*puriy* (歩く) については、この使用法も最初の使用法もある。

例 *Erqeqa Qosqo kallikunapiyá purimushan, riki.* (少年は、きっとクスコの街を歩いていることでしょう。)

Warmachayqa haqaypi mikhumushan. (私の息子は、あそこで食事をしています。)

④これらの一般動詞が、*-mu*をつけた形で命令法の中で使用されると、「……して来なさい」という意味になる。

例 *Yaw warmacha mut'ita mikhumuy.* (やあ少年よ、ゆでとうもろこしを食べて来なさい。)

⑤肉体やものの内部から発生してくる様態を表わすことがある。

例 *Weqeyki sut'urimushan.* (あなたは涙が出てきている。)

-N

① *-mi*の項、参照。

-NA

①義務の接辞。動詞に接続する。

例 *Eskuylapiqa kastillanullata rimananchis.* (学校ではスペイン語だけ話さなければならない。)

Usqhaymi rinay kashan. (私は、すぐに行かねばなりません。)

② *-paq*と併用されると、目的を表わす副詞句を作る。

例 *Japoneskunaqa llank'anankupaq kawsanku.* (日本人は、働くために生きます。)

③ *-kama*と併用されると、条件ないし期間を表わす副詞句を作る。

例 *Tusunaykikama samasaq.* (あなたが踊るあいだ、私は休みます。)

④動詞の語幹について名詞に転換する。

例 *mikhuy* (食べる) → *mikhuna* (食物)

ruway (する) → *ruwana* (仕事・宿題)

⑤特定の名詞に接続し、*-y* (*-y*の項、参照)を伴って動詞を作る。

例 *uhu* (中) → *uhunay* (中に入れて、置く)

rap'i (葉) → *rap'inay* (葉をとって、置く)

-NAKU (-na + -ku)

①相互動詞の作成。

例 *Unayña reqsinakuyku.* (私たちは、もうずっと古くからの知り合いです。)

-NAYA ①願望の接辞。名詞・動詞の語幹に接続し、*-y*を伴って新しい動詞を作る。

例 *tusuy* (踊る) → *tusunayay* (踊りたい)

aha (チチャ) → *ahanayay* (チチャが欲しい)

-NEQ/-NIQ

①場所の近接。名詞に接続する。

例 *Machupikchuneqpi tiyani.* (私は、マチュピチュの近くに住んでいます。)

②時間の近接。

例 *Tardeneqpi tupasunchis.* (午後あたりに会いましょう。)

-NI

①音調の接辞。主として、子音で終わる名詞を接辞の *-yoq* または所有代名詞と結合するとき使用する。

例 Kaqniyoq phamillaqa allinta mikhun. (裕福な家庭は十分食べる。)
Haqay señoraq yawarminqa mana allinchi. (あの女性の血液はよくない。)

-NIRAQ

①形容詞に接続し、類似の意味を加える。

例 huch'uy (小さな) → huch'uyniraq (なにか小さな)
puka (赤い) → pukaniraq (赤っぽい)
hoq (別の) → hoqniraq (どこか別の)

-NKA/-NINKA

①配分の接辞。名詞・数詞に接続する。

例 huk (ひとつ) → hukninka (各自ひとつずつ)
killa (月) → killanka (毎月交替で)

-NPA ①位置の接辞。主として名詞に接続し、-mantaが後続することが多い。

例 Umanpamanta urmayuni. (私は、頭から落ちました。)

-NTI/-STI

①包含の接辞で、「すべて」「全体」「みんな」の意味になる。ふつう -nが後続する。また、子音で終わる名詞に接続する場合、音調の -niを前置する。

例 Wayqentinmi paywanqa kayku. (彼と私は、兄弟です。)
Chakrantinpin papata tarpunchis. (私たちは、畑一面にジャガイモを植えます。)

-ÑA ①完了。ある行為やものの存在が、現在もしくは未来においてすでに完了していることを示す。否定文では、その行為が中断されたか、もはや行なわれていないか、あるいは単にそのものがもはや存在しないことを示す。

例 T'antataqa rantiykuña. (もう私たちは、パンを買いました。)
Manañan kallpay kanchu. (私にはもう力がありません。)

* -ñaは、他の接辞にも、動詞・形容詞・副詞にもつくことが出来る。そのうえ、接辞としての -ñaに加えて、肯定文や疑問文では副詞の ñaを前置することも出来る。ただし、否定文においては、manaのあとにつける。なお、1つの文のなかに2つ使用することも出来る。

例 Ña paykunaqa Qosqota reqsinkuña. (彼らは、もうクスコをよく知っています。)

② -llaと併用されると、強調の意味になる。

例 Hayallañan kay roqotuqa kasqa! (このトウガラシは、とても辛かった!)

-PA ①反復の接辞。動詞に接続し、修正・完成するためにやり直す、という意味を付け加える。

例 pichay (掃除する) → pichapay (掃除し直す)
yapay (加える) → yapapay (つけ足す)

-PA/-Q

①所有の接辞。名詞・代名詞に接続し、子音で終わる場合は、-pa、母音で終わる場合は -qをつける。

例 Paypa wasinpi noqa llank'ani. (私は、彼の家で働きます。)
Asnuq uñanqa yana. (ロバの子は黒い。)

* -qは、-qpaの形で使用されることが多いが、特に意味はない。しかし、pi (「だ

れ?」)につく場合は、必ず *piqpa* となる。

例 *Huanaq*(*Huanaqpa*) *chakranpi llank' ayku*. (私たちは、フアナの畑で働きます。)

-PAKU (-pa + -ku)

①反復・試行の接辞。動詞に接続する。

例 *kichay* (開ける) → *kichapakuy* (開けようと努力する)
qhaway (見る) → *qhawapakuy* (何度も見る)

②動詞に接続し、「他人のためにする」という意味を加える。

例 *llank' ay* (働く) → *llank' apakuy* (他人のために働く)

③動詞に接続し、「無償で」何かを使ったり利用したりするという意味を加える。

例 *Wasiykipi puñupakusaq*. (私は、あなたの家で眠ることにしよう。)

-PAQ ①名詞や動名詞に接続し、目的・利益を表わす接辞。「……のために」の意味。

例 *Tulluta apashani alqopaq*. (犬のために骨を持って行ってやります。)

Mikhunaykipaq makiykita maqchhirakamuy. (食事するために、手を洗ってきなさい。)

②時間を表わす語に接続して、時制により、目的や期限を表わす。

例 *Paqarinpaq ahashani*. (明日のためにチチャを作っておきます。)

Musq watapaqqa musq wasiy kanqaña. (新年までには、私の新しい家が出来上がるでしょう。)

④交換の手段を表わすこともある。

例 *Papaypaq qowankimanchu saraykita?* (私のジャガイモとあなたのトウモロコシを交換してくれませんか?)

-PAS/-PIS

①並列の接辞。主語ないし目的語が既述のものと同じであることを示す。日本語の「も」に当たる。

例 *Noqapas qheswata rimani*. (私もまた、ケチュア語を話します。)

T' antatapas asukartapas rantiyku. (私たちは、パンも砂糖も買いました。)

②選択の接辞。

例 *Papapaqpis lisapaqpis qosqaykiya kapulitaqa*. (ジャガイモでもオユコでも、私はカプーリをあなたと交換しましょう。)

③ *-chá*との併用 → *-chá*の項、参照。

④疑問代名詞と併用されると、話し手の不確かさを表わす。

例 *Imatas ch' isiqá mosqhokunipás?* (昨夜は、一体、何の夢を見たのだろうか?)

⑤示唆の接辞。

例 *Mayqentachu munankipas?* ([あなたのためにはこれがいいと、私は思いますが] それとも、他のどれが、あなたは欲しいのですか?)

Icha kunanqa amachu llank' anayman ripusaqpas. (……それとも、私、今日は仕事に行かなかったらどうかしら?)

-PAYA ①動詞に接続し、「頻繁」の意味を加える。

例 *rimay* (言う) → *rimapayay* (何度も言う)

②動詞に接続し、「同伴」の意味を加える。

例 *puñuy* (眠る) → *puñupayay* (一緒に眠る、同じ家で眠る)

mikhuy (食べる) → mikhupayay (食事に付き合う)

- P I ①場所の接辞。名詞に接続し、「……において」の意味。
例 Pedroq wasinqa Qosqopi. (ペドロの家はクスコにある。)
Amiguypa chakranpi llank' ayku. (私たちは、友達の家で働きます。)
- ②ある行為に要する期間を表わす。
例 Huk killapi llank' anata tukuni. (彼はその仕事を1カ月でやり終えた。)
- ③通信運搬の手段。
例 Paykunaqa karrupi Limaman rinku. (彼らは、車でリマへ行く。)
- ④行為の様態。
例 Noqaykuqa musikapi hamuyku. (私たちは、音楽を聴きながらやってきました。)
- ⑤指示形容詞について場所の副詞に転換する。
例 Kay runaqa kaypi tiyan. (この人は、ここに住んでいる。)
- P T I ①動詞に接続し、「……するとき」という意味の副詞句を作る。
例 Taktipiyki kusikuni. (あなたが歌うとき、私は楽しくなる。)
- P U ①運動を表わす動詞についた場合、その行為者が起点に帰還したり、日常的な居場所に移動したりすることを意味する。
例 Warmachakunaqa eskuylamanmi ripushanku. (子供たちは、学校に行くところです。)
Wasiman haykupunanchisña. (もう家のなかに入ろう。)
- ②動詞に接続し、恒久的ないし長期的につづく変化を表わす。
例 Lukasqa hanpiqmi kapun. (ルーカスは、医者になった。)
Mariaqa manan wasinpichu tiyapun. (マリアは、自分の家に住まなくなった。)
- ③動詞に接続し、「誰か他の人のために」(ただし、不利益になる場合もある)それを行なうという意味を加える。-paqや目的格の人称代名詞に相当する接辞を伴うことが多い。
例 Allichu (noqapaq) unuman rirqapuway! (どうか、私のために水を取りに行ってください!)
- * ただし、-puが-muの後に置かれる場合、音韻変化により、-mpuの形になる。
例 Hiroshipaq t' antata rantimpuni. (私は、ヒロシのためにパンを買ってきました。)
- P U N I ①強調・確実の接辞。品詞のいかにかわらず、強調したい語に直接接続する。
例 Waka yachata manapuni mikhunichu. (私は、牛肉は絶対食べない。)
Paqarinpunin risaq. (私は、明日は必ず行きます。)
Qanpuniyá riki ruwarqanki! (確かに、あなた自身がやったのですね!)
- P U R A ①選抜・協働の接辞。名詞に接続する。
例 Qharipuralla llank' ashanku. ([みんなの中から] 男だけで力を合わせて働いています。)
- P U W A N / - P I W A N ①追加の接辞。名詞・代名詞に接続する。
例 Paykunaqa khuchitapuwán michishanku. ([彼らは家畜を放牧していま

す。]そして豚も放牧しています。)

Wasiyoqwan, warminwan, noqapuwan Qosqota risaqku. (家主もその奥さんも、そして私も、クスコへ行くでしょう。)

- Q ①所有の接辞。前掲 -pa/-qの項、参照のこと。
 ②動詞の語幹につき、同じ文の中で運動を表わす動詞と併用される場合は、ふつう目的を表わす副詞句を作る。
 例 Watukuq risaq. (私は、見舞いに行くでしょう。)
 ③KAY動詞とともに使用されると、習慣を表わす。
 例 Noqa hamuq kani. (私は、よく来たものです。)
 ④動詞の語幹に接続して、それを「……する人」という意味の名詞に変える。
 例 llank' ay (働く) → llank' aq (労働者)
 pukllay (遊ぶ、プレーする) → pukllaq (プレイヤー)
- QA ①提示の接辞。ケチュア語の表現にとっては不可欠の接辞で、注意を引いたり強調したりするために使用される、話題を提示するためのものである。日本語の「は」の役割に似ている。ほとんどの単語に接続するが、manaとñaには接続しない。また、-qaのあとにはどんな接辞も接続しない。
 例 Luisqa allin wiraqocha. (ルイスは、いい人です。)
 Amiguypa chakranpiqa papapas sumaqta rurun. (私の友達の畑では、ジャガイモもたくさん取れる。)
- QTI ①未来形や可能法では条件を、現在形や過去形では理由・動機を表わす接辞。動詞に接続し、副詞句を作る。ただし、副詞句の行為者と主文の行為者とが異なる場合に使用される。
 例 Llank' ana kaqtinqa kay llaqtapi qhepakusaq. (仕事があれば、私はこの村に残ろう。)
 Paraqtinmi mana llank' arqanichu. (雨だったので、私は働かなかった。)
- RAQ ①継続の接辞。ある行為やものの存在が継続していることを示し、「まだ」とか「いまなお」と訳すことが出来る。動詞にも形容詞にも副詞にもつくが、否定文ではmanaもしくは動詞、あるいはその両方につくことが出来る。ただし、時を表わす副詞に接続すると、さまざまなニュアンスの意味になる。
 例 Machulayqa llank' ashanraq. (私の祖父は、まだ働いています。)
 Sarayki askhacharaqchu kashan? (あなたのとうもろこしは、まだたくさんありますか?)
 Asindayoqqa manaraq allintachu runasimita riman. (農園主は、まだケチュア語がよく話せません。)
 Kunanraqchá huffunakuy kanqa! (やっとう今日、集会があるだろう!)
- ②優先・先行を表わすことがある。
 例 Runasimitaraq yachasunchis. (まずケチュア語を勉強しましょう。)
 ③同じ文の中で2つ以上使用されると、「ときには……、ときには……」という意味になる。
 例 Qanqa asichiwankiraq waqachiwankiraq. (あなたは私を、ときには笑わせ、ときには泣かせます。)
- ④疑問代名詞に接続すると、疑問・不明の意味を強める。

例 *Imapaqraq qolqeta apamunki?* (あなたは、何のためにお金を持ってきたのですか? [まだ持ってこなくてもよかったのに])

-RAYA / -LAYA

①接続・永続の接辞。動詞に接続し、ある状態が「持続」するという意味の動詞を作る。

例 *Mariatan qhawarayashanki.* (あなたは、マリアを見続けている。)

②色や形を表わす形容詞に接続し、その色や形が「目立つ」という意味の動詞を作る。

例 *Karuyki pukarayashan.* ([たくさんの自動車の中で] あなたの自動車は赤くて目立っています。)

-RAYKU

①動機・原因の接辞。名詞・代名詞に接続する。

例 *Qanrayku llank' ashani.* (私は、あなたのために働いています。)

Imaraykun mana qanchu maskhaq riranki? (なぜ、あなた自身が探しに行かなかったのですか?)

②条件を表わす副詞句を作ることもある。

例 *Yanapariwanaykiraykuqa mañayusqaykiya asnuyta.* (私を手伝ってくれるなら、あなたに私のロバを貸しましょう。)

-RI ①動詞に接続し、あることを勧めたり、ある行為にまきに移ろうとしている、というニュアンスを加える。

例 *Phiñarikuy!* (あなたは怒ったほうがよい! 怒ったら!)

Ñan erqechaqa puñurishanña. (子供はもう眠ろうとしている。)

Yacharichiy! (教えてあげて!)

② -taq との併用。-taq……-ri の項、参照。

-RPARI / -YPARI

①動詞に接続し、故意・不注意・粗雑の意味を加える。

例 *saqey* (残す) → *saqerpariy* (故意に残す、捨てる)

tanqay (押す) → *tanqarpariy* (わざと押す)

-RU / RQU

①動詞に接続し、その行為が「突然おこる」ことを示す。

例 *Rurunniymi ismurusqa.* (私の肝臓は急に悪化した。)

Kay warmita qarqorusqaku. (彼らは、この女性を突然解雇した。)

②緊急の勧告を表わす。

例 *Upharukullayña!* (いますぐ顔を洗いなさい!)

③単に、聞き手に対する敬意・丁寧な気持ちを表わすこともある。この場合、-ku や -yu を伴うことが多い。なお、-yu + -ru は、音韻変化により -yru となる。

例 *Mikhuyrukuy kay t' antata.* (このパンを食べてください。)

*特定の接辞が後続すると、音韻変化により -ra/-rqa となる。

-SAPA ①特定の名詞に接続し、増大の意味の形容詞に変える。

例 *uma* (頭) → *umasapa* (頭の大きな)

yuyay (記憶) → *yuyaysapa* (賢い)

-SI / -S

①推量・伝聞の接辞。子音で終わる語に接続する場合は -si、母音の場合は

-sを使用する。話し手が生まれる前や幼かったときのことにも使用する。

例 *Paysi yanay.* (彼は私の恋人だ、と言われている。)

Mamaysi paqarin chayamunqa. (私の母は、明日当地に着くそうだ。)

Mamayqa Qosqopis taytaywan reqsinakusqaku. (私の母は、クスコで父と知り合ったのですって。)

- S P A ①動詞の語幹について、現在分詞(句)を作成し、「……しながら」「……してから」「……するなら」等の意味になる。ただし、接続する動詞の行為者と主文の行為者が同じ時に使用する。

例 *Puñuspa ch' isiyani.* (私は、一日中寝てすごしました。)

Takispa purini. (私は、歌いながら歩きます。)

Mikhuyta tukuspaykiña llank' aqqa rinki. (食事してから働きに行けばよい。)

Munaspa mihuy, ama munaspaqa amataq! (食べたいなら、食べなさい。食べたくないなら、食べるな!)

- S A Q ①動詞の語幹に接続して過去分詞となり、形容詞的、名詞的に使用される。なお、所有格の人称代名詞に相当する接辞(=接続する動詞の主語を表わす)を伴って句を作ることがある。

例 *Chay machasqa runaqa taytaymi.* (その酔っ払っている人が私の父です。)

(*qanpa*) *wasichasqayki wasi* (あなたが建てた家)

Amayá chay yachasqaykita qonqankichu! (いま学んだことをけっして忘れるな!)

- ②「今、発見した」という意味になる。

例 *Tomascha allin wayk' uqmi kasqa.* ([今、私にはわかったが] トマスは、よいコックだ [った]。)

- S T I ①動詞に接続し、主文の動作に引き続いて、あるいは同時に起こることを示す。

例 *Llank' astillanñan (ichaqa) chayaramusaq.* ([ともかく] 着いたらすぐ働きますから。)

- S H A ①進行形の形成。過去時制の場合は、話し手がその動作の行なわれたまさにその時を思い出しながら話していることを示し、また未来時制の場合は、その動作がある一定の時まで続くことを、あるいは他の動作が行なわれているあいだ続くことを示す。

例 *Luis qelqashan.* (ルイスは書いている。)

Noqaqa mikhusharani qowi kankata. (私は、[そのとき] クイの焼肉を食べていました。)

Paqaringa eskuylapi kashasaq chawpi p' unchaykama. (明日は、私は正午まで学校にいます。)

Paramushan! Chaykama aqhata aqhashaychis. (雨が降っている! その間に、あなたがたはチチャを作りなさい。)

- T A ①名詞や動名詞について、他動詞の直接目的語を示す。

例 *Noqa qheswata rimani.* (私は、ケチュア語を話します。)

Amigaypa amigunqa manan runasimi rimayta yachanchu. (私の女友達の友達は、ケチュア語が話せない。)

- ②形容詞について、副詞に転換する。

例 *Saraqa sumaqta rurun.* (トウモロコシは、たくさん実った。)

③移動の方向を表わす。-manの項を参照のこと。

例 Haku Qosqota. (さあ、クスコに行きましょう。)

④動作が行なわれる時間・曜日等を表わす。

例 Lunestaqa hunt' achá runa Qosqoman rinqaku! (次の月曜日にはたくさんの人がクスコに行くだろう!)

-TAQ ①対照・分担の接辞。名詞や動詞に接続する。

例 Luisqa t'antata mikhun, Pedrotaq hank'ata mikhun. (ルイスはパンを食べ、ペドロは煎りとうもろこしを食べる。)

Kunan parashan, paqarintaq ruphayanqa. (今は雨が降っているが、明日は晴れるだろう。)

Noqayku qhatuyku, qankunataq rantinkichis. (私たちが売って、あなたが買う。)

②並列の接辞。動詞に接続し、いくつかの動作がほとんど同時に、一定の期間、一定の場所で行なわれることを示す。

例 Noqaqa wayk'unitaq, estudiantinaq, chakrapi llank'anitaq. (私は料理したり、勉強したり、畑仕事をしたりします。)

Paqarinqa, phistapi takisaqtaq, tususaqtaq, parlasaqtaq. (明日のパーティーでは、私は歌ったり、踊ったり、おしゃべりしたりしよう。)

-TAQ...-RI

①口調の接辞。これら2つの接辞は単独でも共同でも使用され、奇異や親愛の念をこめて質問するときとか、単に話を切りだすためとかに使用される。なお、-riのついてる単語でもって質問が開始される場合、アクセントを打つことがある。

例 Imataq sutyikiri? (で、あなたのお名前は、何といますか?)

Qanri pi kanki? (で、あなたは誰ですか?)

Pitaqri? (誰ですか?)

②感嘆文の中で使用されると、怒りや不安、心配や喜びなどを表わす。

例 Yaw erqe, imatataq ruwankiri! (おい君、何をしているんだ!)

Imataq kay vidar! Manan qolqepas kanchu. (何という人生なんだ! お金もない。)

-WAN ①手段の接辞。名詞に接続し、「……によって」の意味。

例 Yenwan rantini. (私は、円で買いました。)

②同伴の接辞。行為者が誰かと一緒に、あるいは何かと一緒にその行為を行なうことを示す。誰かの指導や示唆によってそれを行なうことを示すこともある。

例 Noqaqa tayta-mamaywanmi tiyani. (私は、両親と一緒に暮らしています。)

Noqaqa wiraqocha Victorwanmi awayta yacharqani. (私は、ヴィクトル氏のもとで織り方を習いました。)

③並列の接辞。

例 Mamaywan panaywanqa aqhata qhatushanku. (私の母と姉がチチャを売っています。)

④原因の接辞。

例 Qh'asqo nanaywan wañun. (彼は、肺の痛みで死ぬ。)

-Y ①動詞の語幹につき、不定形を作る。それと同時に、抽象名詞や動名詞(句)を作る。

例 mikhuy (食べる、食物) llank'ay (働く、労働)

Runasimi yachayqa manan sasachu. (ケチュア語を学ぶことは、むつかしくはない。)

Munankichu llank'ayta? (あなたは働きたいのですか?)

②強化の接辞。重ねて使用されることにより、形容詞の程度を強化する。

例 k'acha (優雅な) → k'achay k'achay (とても優雅な)

-Y A ①感情の強調。疑問文以外なら、肯定文でも否定文でも感嘆文でも使用される。ときには喜びや活気、またあるときは苦悩や憂鬱や無気力を表わす。この接辞はほとんど常に語の一番最後につくが、強調の接辞 -riが後にくる場合、-yaにはアクセントを打たない。

例 Hakuyá kuska. ([喜んで]一緒に行きましょう。)

Taytayqiqa allin runayá karan, allintayá llank'aranpas. (あなたのお父さんはいい人でしたよ。なにしろよく働いたんだから。)

Yaw qella, llank'ayari! (こら怠け者、働けったら!)

-Y A Y (-ya + -y)

①変形の接辞。特定の形容詞を動詞化し、「……になる」という意味を加える。

例 tullu (瘦せた) → tulluyay (瘦せる)

wira (太った) → wirayay (太る)

machu (年老いた) → machuyay (年を取る)

-Y K U (-yu + -ku)

① -yuの項、参照。

-Y O Q ①所有ないし保有。どんな名詞であれ、この接辞がつくと、そのものの所有者であることを示し、名詞的にも形容詞的にも使用することが出来る。

例 Wasiyoq hamunqa. (家主が来るでしょう。)

Haqay runaqa askha allpayoqmi. (あの人は、たくさんの土地を持っています。)

Kallpayoq runakunalla llank'ashanku, asindayoqtaq qhawashallan.

(力のある人間だけが働いており、農園主は見ているだけです。)

②出身を表わすこともある。

例 Haqay wiraqochaqa Wankayu llaqtayoqmi. (あの紳士は、ワンカーヨ市の出身だ。)

-Y S I ①補助の接辞。動詞に接続し、助力・協力の意味を加える。与格の人称代名詞を伴うことが多い。

例 Hakuyá allaysiwanki! (さあ、私がイモを収穫するのを手伝ってください!)

-Y U / Y K U

①尊敬・嘆願の接辞。動詞に接続する。

例 Mateta ukyayukuy! (どうぞマテ茶をお飲みください!)

②強調・増加の接辞。

例 Onqoyun. (彼は、病気が重くなる。)

Nishutan parayushan. (ものすごく雨がふっています。)

③動作の方向(内へ・下へ・方へ)を表わすこともある。

例 achhuykuy (近付く)

rimay (話す) → rimayuy (話し掛ける)
 apay (運ぶ) → apayuy (運び込む)
 p'itay (飛ぶ) → p'itayuy (飛び降りる)

*後続する接辞の種類によっては、-YA/-YKAに音韻変化する。

III 接辞の語順——ひとつの試み——

ケチュア語の場合、接辞の語順ほど、ケチュア語学習者にとり難解なものはない。以下では、もっとも標準的なケースを、できるだけ簡略に図示することにした。ただし、接辞のすべてを網羅したものではないし、(I・II・III……)は優先順位というほどの意味のものである。また、音韻変化するものについては、原則として原型のみを掲げた。

(a) 名詞に接続していく場合——

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV
cha	kuna	rayku	lla	man	wan	puni	raq	taq	pas	chá	mi/n	chu	si/s	yá
				manta	puwan		ña							má
				paq	kama'									
				pi										
				ta										

1)前節「接辞一覧」中の -kama ④(「みんな……ばかり」)はここに位置し、さらにこの場合 -llaは例外的に -kamaのすぐ後に接続する。

例 Lukasllañan llank'ashan. (ルーカスだけが、もう働いている。)
 Asnukunamanwanpuni q'achuta qaray! (ロバたちにも必ず草をやりなさい!)
 Asnukunapaqwanpuniraqchus q'achuta apamunqa. (あっそう、彼はまずロバたちのためにも必ず草を持ってくるんですか、へえ。)

(b) 動詞 (の語幹) に接続していく場合——

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII……XXI
ri	yu	ru	chi	naku'	ku	mu	sha	目的格 ³	na ³	lla	語尾 ⁵	puni …………… yá
						pu			spa ⁴			má
						mpu			qti ⁴			[(a)と同じ]

- 1) *-naku* (複合接辞) が *-yu* と接続する場合、*-nayuku* ないし *-nayku* となる。ただし、後者のほうが一般的である。
- 2) 目的格の人称代名詞に相当する接辞のことで、これまでは *sufijo pronominal* (代名詞的接辞) とか *sufijo de transiciones* (移行の接辞) と呼ばれてきた。本稿では説明を省略した。
例 *Lukasqa munawan.* (ルーカスは私を愛している。)
- 3) *-na* の接続する語幹動詞が述部ではなく副詞的(動名詞句)を形成する場合 (*-na* 項②・③、*-rayku* 項②、参照) は、該当部分の語順は次のとおりとなり、当然のことながら、「Ⅻ語尾」は来ない。なお、所有格の人称代名詞に相当する接辞については、本稿では説明を省略したが、下記の例文中の *-y* がそれ(一人称単数)に当たる。

Xa	Xb	Xc
na	所有格の人称代名詞に相当する接辞 (=副語句の中の主語)	kama rayku paq

なお、*-paq* が *-lla* を伴う場合、*-lla* は *-na* のすぐ後に接続する。

例 *Mikhunallaypaq llank'ani.* (私は食べるためだけに働きます。)

- 4) これらの接辞も副詞句を形成するための接辞であり、基本的には 3) の *-na* と同じ語順になるが、*-kama* 等に接続することはない。
- 5) 現在・過去・未来の時制に関係なく、動詞語尾に相当する接辞はここに位置する。これらの接辞については本稿では省略したが、現在形を例にとれば、以下のような接辞群である。

	単 数	複 数
一人称	<i>-ni</i>	(排他的) <i>-yku</i> (包含的) <i>-nchis</i>
二人称	<i>-nki</i>	<i>-nkichis</i>
三人称	<i>-n</i>	<i>-nku</i>

例 *Mikhukamuni t'antata.* (私は、パンをおいしく食べてきた。)

Llank'amushankuraqmi chakrapiqua. (彼らは、畑でまだ働いている。)

Rosaqa rantiyrakamusqataqsi p'achata. (ロサは、自分のために服を買ったんですって。)

【注】

- 1) 現在もっとも信頼されているケチュア語辞書 (Lira 1982) や、筆者らが編集した小辞典 (パロミーノ=青木・青木 1991) もまた、その例外ではない。接辞についてはふつう、文法書や手引書で説明されている。たとえば、(Cusihuamán 1976b) や (Soto Ruiz 1979)、(パロミーノ=青木 1988) など。
- 2) (細川 1988: 1589-95)。
- 3) たとえば、動詞の語尾、人称代名詞の所有格や目的格に相当する接辞が、この接辞のグループに入る。
- 4) ケチュア語の表記法については、1975年10月にペルー政府によって制定された正書法 (教育大臣令第4023-75号) にほぼ準拠しているが、*i* と *u*、*e* と *o*、*n* と *m* については、やや工夫を加えた。

【参考文献】

- Cerrón-Palomino, Rodolfo
1987 *Lingüística quechua*. Cusco, Bartolomé de las Casas.
- Cusihuamán G., Antonio
1976a *Diccionario quechua: Cuzco-Collao*. Lima, Min. de Educación/IEP.
1976b *Gramática quechua: Cuzco-Collao*. Lima, Min. de Educación/IEP.
- Grondin N., Marcelo
1980 *Método de quechua*. 2a. ed. La Paz, Los Amigos del Libro.
- Guardia Mayorga, Cesar A.
1973 *Gramática Kechwa: Runasimi allin rimay yachay*. Lima, Los Andes.
- 細川弘明
1988 「ケチュア語族」ほか、『言語学大辞典』第一巻「世界言語編（上）」亀井孝・河野六郎・千葉栄一編著 東京、三省堂
- IPA [Instituto de Pastoral Andina], Equipo de Quechua
1989 *Runasimi: Qosqo Qollaw*. 2 vols. Cusco, IPA.
- Lara, Jesús
1978 *Diccionario qhëshwa-castellano*. 2a. ed. La Paz, Los Amigos del Libro.
- Lira, Jorge A.
1982 *Diccionario kkechuwa-español*. 2a. ed. Bogotá, SECA.
- Morato Peña, Luis
1981 *Runasimi Básico Qosqo Collaw*. Cusco, IPA.
- パロミーノ＝青木アンヘリカ
1988 「アンヘリカの現代ケチュア語入門（一）」（青木芳夫訳）『資料ラテンアメリカ』第10号
- パロミーノ＝青木アンヘリカ、青木芳夫（共編）
1991 「ケチュア語／スペイン語／日本語小辞典」『資料ラテンアメリカ』第17号
- Soto Ruiz, Clodoaldo
1979 *Quechua: Manual de enseñanza*. Lima, IEP.

Resumen

El idioma quechua, que hablan diariamente unos millones de habitantes en los países andinos, lingüísticamente pertenece al grupo de las lenguas aglutinantes como el japonés. Para las lenguas aglutinantes, los sufijos desempeñan un papel muy importante. Sin embargo, en el caso del quechua, los diccionarios no dan una explicación independiente y detallada de los sufijos sino en la forma combinada con algún nombre o verbo. Por lo tanto, en este artículo los autores tratan de explicarlos independientemente y por su orden alfabético.

